

**学校法人日本赤十字学園
日本赤十字秋田短期大学
機関別評価結果**

平成 20 年 3 月 19 日

財団法人短期大学基準協会

日本赤十字秋田短期大学の概要

設置者	学校法人 日本赤十字学園
理事長名	大塚 義治
学長名	森 美智子
A L O	佐藤 サツ子
開設年月日	平成 8 年 4 月 1 日
所在地	秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢 1 7 番地 3

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
看護学科		80
介護福祉学科		50
	合計	130

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

日本赤十字秋田短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 18 年 7 月 26 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

当該短期大学は、平成 8 年に短期大学としてスタートしたが、その前身である日本赤十字社秋田県支部病院救護看護婦養成所は大正 3 年に開設され、昭和 51 年に秋田赤十字看護専門学校と改称された。さらにそれ以前は明治 29 年の救護員養成所までさかのぼる。平成 10 年に 100 周年を迎えている。卒業生のうち 3 人がフローレンス・ナイチンゲール記章（看護師に与えられる国際的な最高の章）を受章している。構内には先の大戦で殉職した方々の写真も掲げられ、一世紀にわたる歴史の重みを感じさせる。

評価領域のすべてにわたって手堅く努力されている。建学の精神には赤十字の基本原則が貫かれ、それが教育目的にも反映されている。教養教育では赤十字分野を設け、特色ある授業科目を開設・実践し、効果を上げている。秋田という地域性に鑑みて、隣接している赤十字病院とともに、看護学科、介護福祉学科は不動の地位を確保している。

学生寮はないので、学生はほとんどが地域から通学しており、地域に根ざした短期大学として、今後さらに地域との強力なつながりが期待される。例えば、介護福祉学科のノウハウをいかしたデイサービスの開設や優秀な学生に対する特待生制度などが考えられる。

管理・運営、財務に関しては、赤十字本部が統括しており、当該短期大学においてもその健全な体質がうかがわれる。

2. 三つの意見

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教養教育に赤十字分野「赤十字概論」や「災害看護論」などを設け、「赤十字」の歴史と伝統を実践力として培う取組みをしている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教育環境は非常によく、最新の設備・機器も整備されており、学内実習において生き生きとした授業が展開されている。
- 隣接する赤十字病院と連携しながら効果的な教育運営を図っている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 県内医療施設を教員が訪問し、就職情報を学生にガイダンスする進路体制が確立している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- ボランティアデーを設定し、学生全員がボランティア活動に参加している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 授業シラバスにおいて、授業回数に沿った形で授業内容を明示することが望まれる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 「秋田」という地域性をいかし、看護や介護の講座を地域に対して積極的に提供していくことが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

3. 領域別評価結果

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

赤十字の「人道：Humanity」を建学の精神・教育理念としており、公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性という原則が示されている。看護学科、介護福祉学科いずれも教育目的・教育目標は明確に示されている。

教育目的・目標は定期的に点検され、学生にはガイダンスなどを中心として周知・徹底が図られている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

両学科ともに赤十字の理念「人道」に基づく建学の精神が反映され、豊かな人間性をもった専門職の育成をめざして体系的な教育課程を編成している。また、現代の社会的要請に応えられるように教育課程の改善も行われている。赤十字という誇りを各種資格として盛り込み学生のニーズに応えている。国家資格取得のハードルを乗り越えるために、クラスアドバイザー、チューターなどの連携で学生の学力向上に向けた全学的努力がみられる。

以上のように、教育課程は体系的に編成され、学生のニーズに応えるもので、さらに授業内容、教育方法および評価方法においても学生に対して明示されており、さらに授業内容、教育方法の改善の努力も認められる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

広大な面積、田園地帯にある環境は、都会の短期大学にない、すばらしさである。校舎、諸設備も最新のもので整備されており、学生の学びには優れた環境である。教員数も非常に多く、そのことが少人数教育など、学生への指導・教育に発揮されてい

る。

恵まれた環境であるが、そこから地域社会へも目を向ける必要があり、地域住民への開かれた短期大学という観点からは課題が残る。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標の達成に向けて、教育上のケアがチューター制のもとで行われ、退学・留年の学生数も減少して、多くの学生が最終目標である看護師、介護福祉士資格を取得している。また、進学する者に対するサポートもされている。卒業生の就職率も極めて高く、就職先からの評価も高い。以上より、教育目標の達成への努力、卒業後評価の努力がなされていると認められる。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学志願者や入学後の学生支援に対する体制は整備され、担任、クラスアドバイザー、チューターの連携による支援体制が行われている。また、学生食堂、学生ホール、ロビーなどの厚生関係施設は完備されている。

訪問調査において在学生に話を聞く機会があり、当該短期大学の学生であることに誇りを持っていることをうかがうことができた。

評価領域Ⅵ 研究

看護学科については紀要などへの論文投稿は多いが、介護福祉学科では少ない。共同研究の実施が課題とされることの多い分野であることから、各教員がその問題意識を持って取組んでいく必要がある。

研究費などは標準的な額が支給されているので、それ相応の成果が期待される。

評価領域Ⅶ 社会的活動

地域社会向けの公開講座や高大連携授業が実施されている。ボランティアデーが設定され、学生全員がその活動に参加している。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事会など学校法人の管理運営体制については特段の問題はない。

教授会については規定により教授のみの構成となっており、決定事項は委員会や各学科に伝達される。

事務組織についても適切に運営されている。人事異動については3年から5年の範囲で異動を実施している。

評価領域Ⅸ 財務

財務運営についてはとくに問題はない。看護学科は、平成 21 年に四年制化するためそのための収支計画が策定されている。

教育研究経費比率は高い水準を保っており、施設設備に関する管理も規程にしたがって適切に行われている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価は毎年実施されている。教職員は何らかの形で委員会に所属しており、改革・改善に取り組んでいる。また、外部評価については早急に実施すべく計画されている。

なお、相互評価については、赤十字関係大学との間で実施することが計画されている。